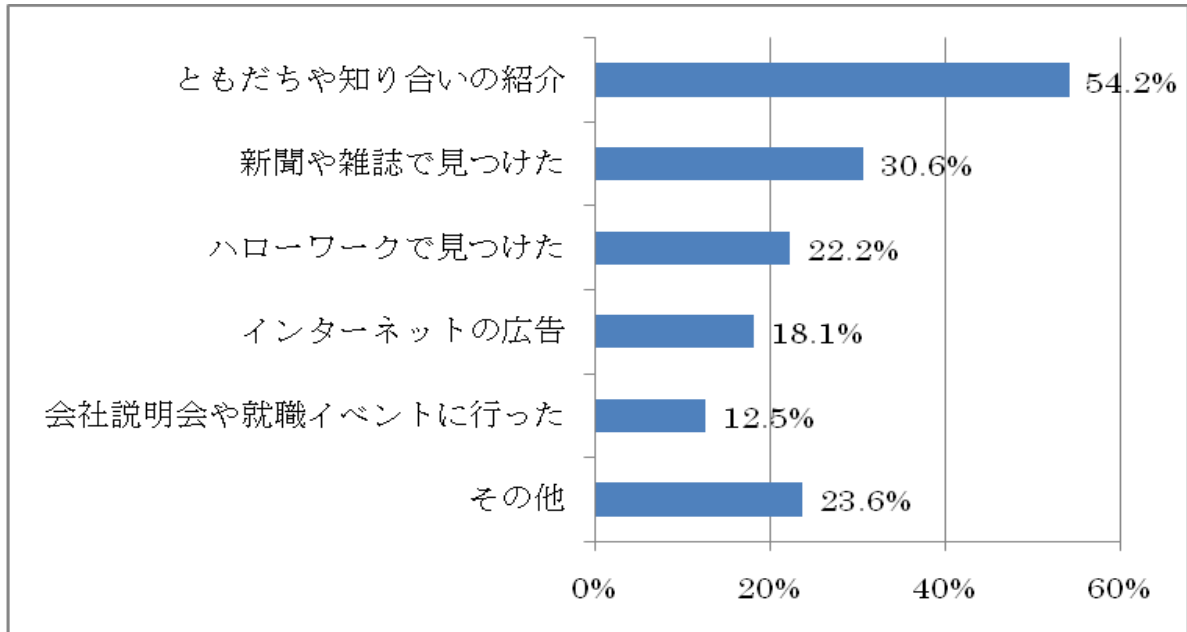


＜仕事について＞

Q1 仕事をどのように見つけたか（仕事をしたことがある人だけ回答、あてはまるもの全部選ぶ）。

友達や知り合いからの紹介が一番多い。



回答者数：72

選択肢	回答数
友達や知り合いからの紹介	39
新聞や雑誌で見つけた	22
ハローワークで見つけた	16
インターネットの広告	13
会社説明会や就職イベントに行った	9
その他	17

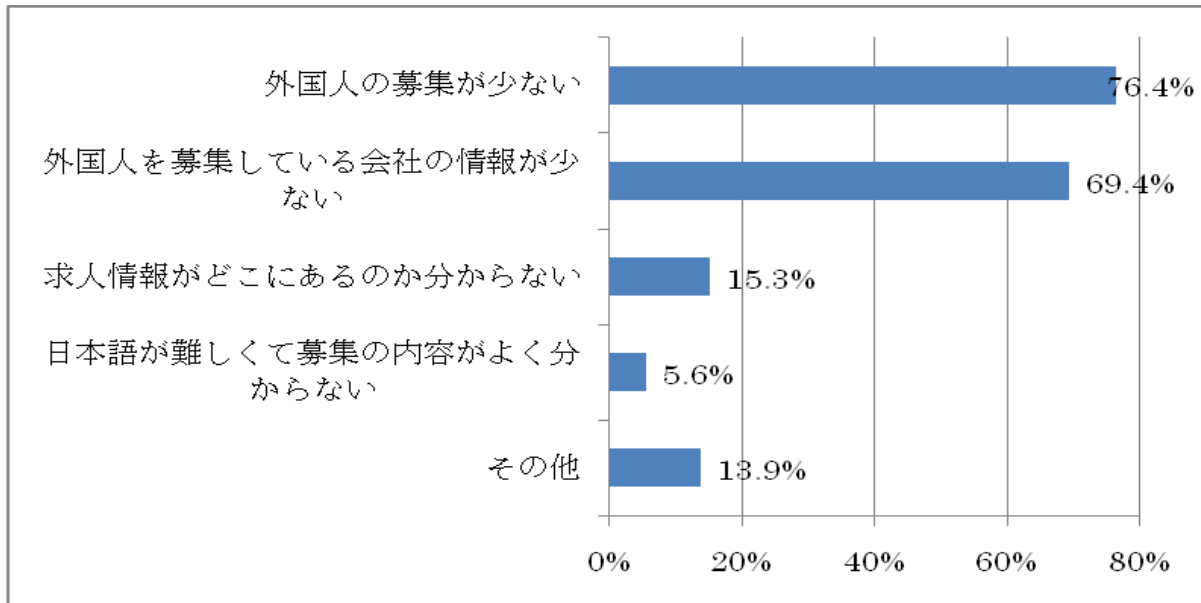
「友達や知り合いからの紹介で仕事を見つけた」人が最も多い。「新聞・雑誌の広告で見つけた」人は30.6%、「ハローワークで見つけた」人は22.2%、「インターネットの広告で見つけた」人は18.1%となっている。

＜主な「その他」の回答＞

- 派遣会社
- 大学院の指導教官の紹介

Q2 仕事を探しているとき、どんなことに困ったか（仕事をしたことがある人だけ回答、あてはまるもの全部選ぶ）。

外国人の募集が少ない、という回答が一番多い。



回答者数：72

選択肢	回答数
外国人の募集が少ない	55
外国人を募集している会社の情報が少ない	50
求人情報がどこにあるのかわからない	11
日本語が難しくて募集の内容がよくわからない	4
その他	10

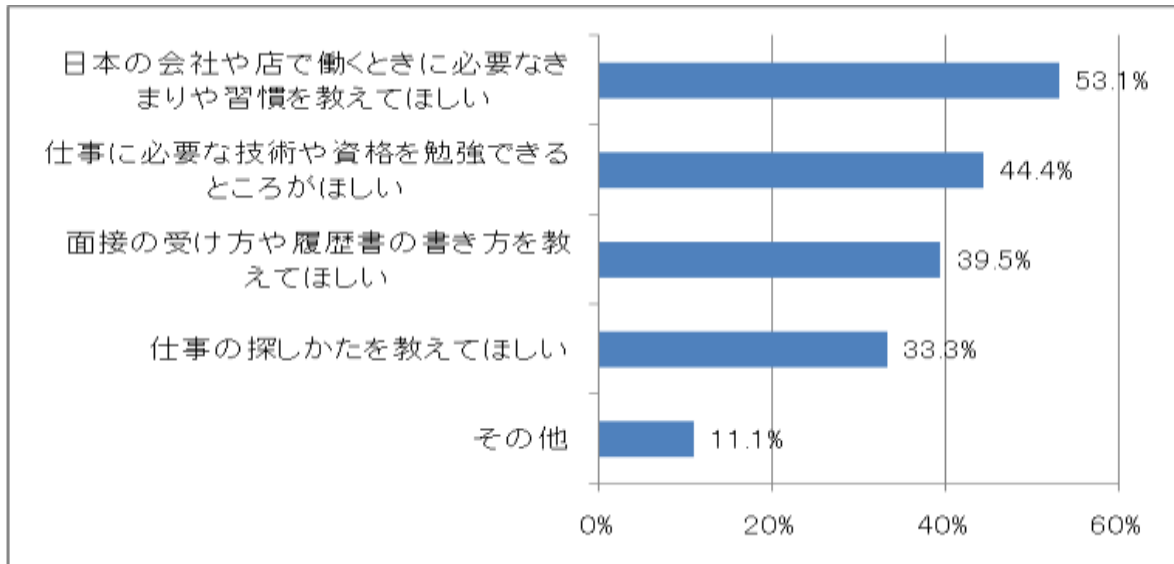
「外国人の募集が少ない」という回答が76.4%と一番多い。また、「外国人を募集している会社の情報が少ない」という回答も69.4%と多い。

<主な「その他」の回答>

- 外国人だと知って断られることが多い
- 求人情報に乗っている条件にはあてはまるもののいざ面接に行くと外国人は対象外だと言われることが多かった

Q3 仕事を探するときどのような援助があればよいか（全員が回答、あてはまるもの全部選ぶ）。

日本で仕事をするときのきまりや習慣を教えてほしい、という回答が多い。



回答者数：81

選択肢	回答数
日本の会社や店で働くときに必要なきまりや習慣を教えてほしい	43
仕事に必要な技術や資格を勉強できるところがほしい	36
面接の受け方や履歴書の書き方を教えてほしい	32
仕事の探し方を教えてほしい	27
その他	9

過半数の人が、「日本の会社や店で働くときに必要なきまりや習慣を教えてほしい」と回答している。「仕事に必要な技術を勉強できるところや、資格を取るための講習会を望む」人も多かった。

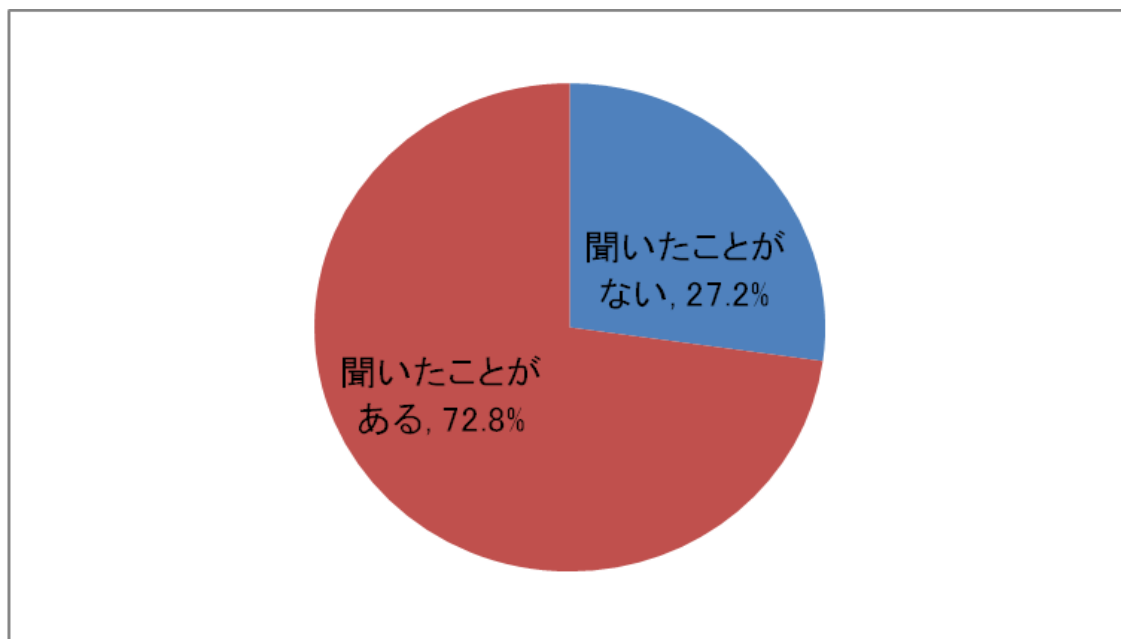
<「その他」の回答>

○仕事の探し方を教えてほしいという項目を選びましたが、それに加えて外国人を必要としている会社の紹介、情報など、説明会のような機会を作る。

＜多文化共生について＞

Q4 「多文化共生」という言葉を聞いたことがあるか（全員が回答）

聞いたことがあるが約7割、聞いたことがないが約3割であった。

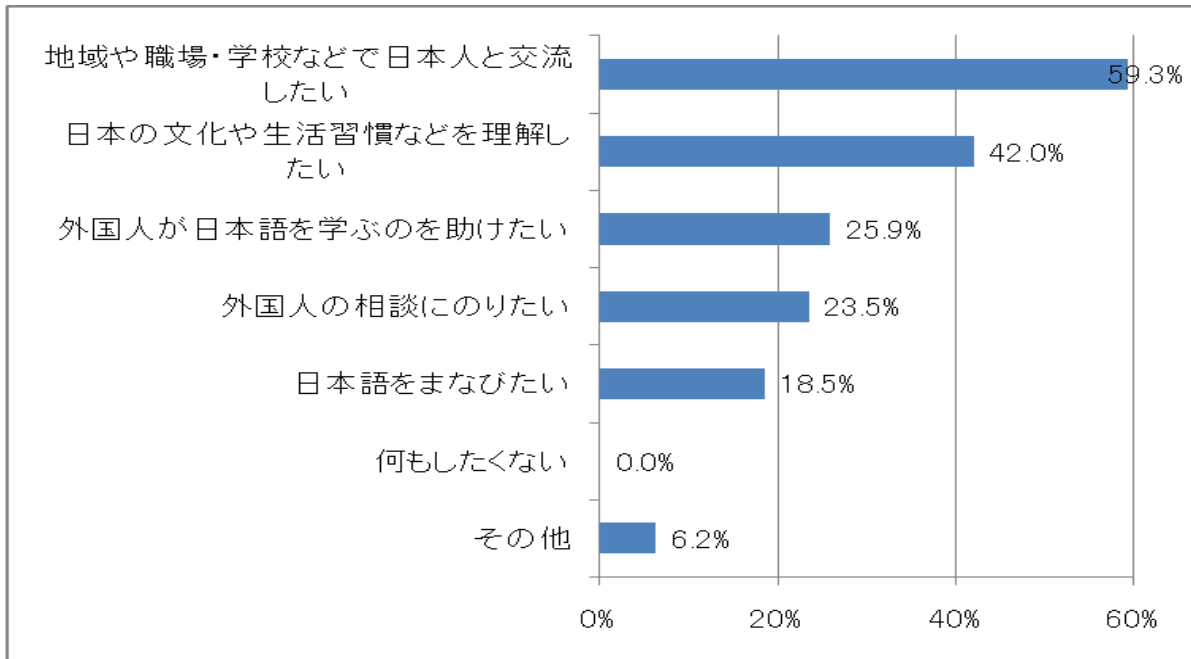


回答者数：81

せんたくし 選択肢	かいとうすう 回答数
き 聞いたことがある	59
き 聞いたことがない	22

Q5 「多文化共生」とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化の違いを尊重しながら、地域社会の一員として共に生きていくことによって、その社会全体をより豊かなものにしていこうという考え方である。「多文化共生」社会づくりのために、どのようなことがしたいか。(全員が回答、答えを2つ選ぶ)。

地域や職場・学校などで日本人と交流したいという回答が一番多い。



回答者数：81

選択肢	回答数
地域や職場・学校などで日本人と交流したい	48
日本の文化や生活習慣などを理解したい	34
外国人が日本語を学ぶのを助けてたい	21
外国人の相談にのりたい	19
日本語を学びたい	15
何もしたくない	0
その他	5

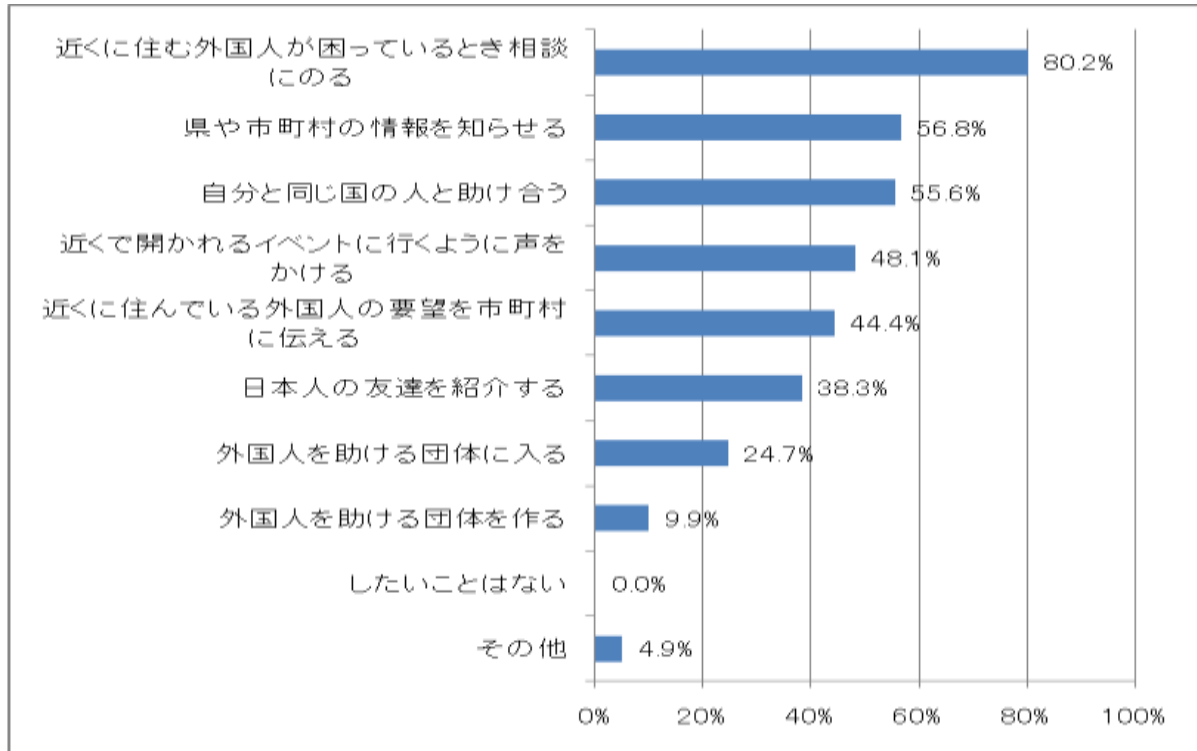
「地域や職場・学校などで日本人と交流したい」という回答が最も多く、次いで「日本の文化や生活習慣などを理解したい」であった。

<「その他」の回答>

○自分の国の文化や言葉を日本人に紹介したい。

Q6 あなたが近くに^{ちか}いる外国人^{がいこくじん}を助^{たす}けるとしたら、何^{なに}ができるか。(全員^{ぜんいん}が回答^{かいとう}、あてはまるもの全部^{ぜんぶ}選^{えら}ぶ)。

困^{こま}っている外国人^{がいこくじん}の相談^{そうだん}にのるという回答^{かいとう}が一番^{いちばん}多い。



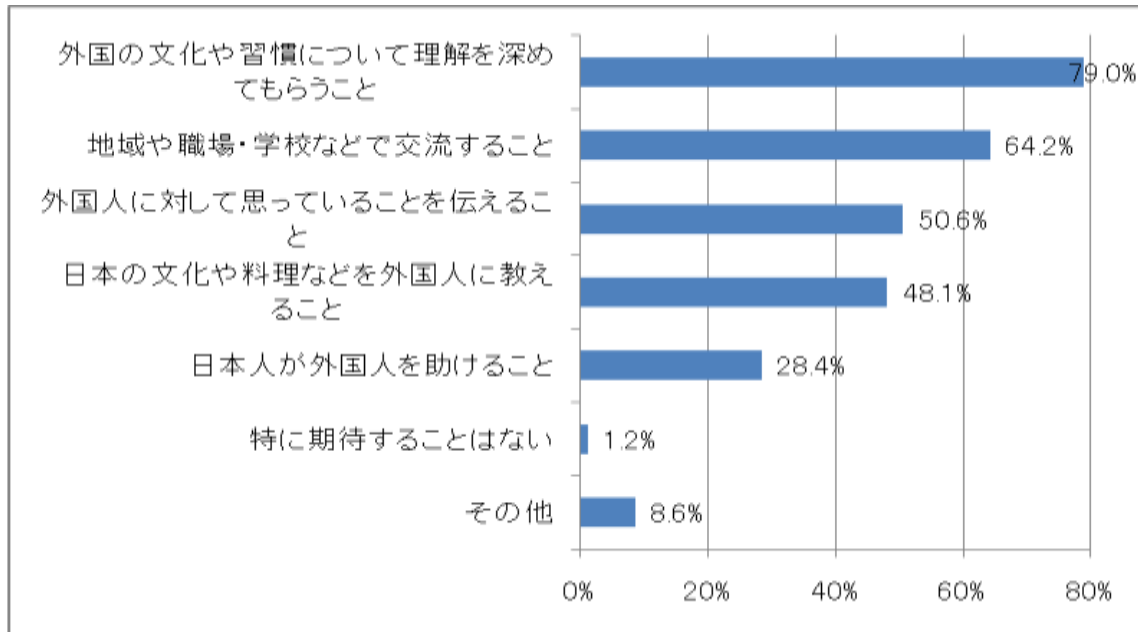
回答者数^{かいとうしやうすう} : 81

選択肢 ^{せんたくし}	回答数 ^{かいとうすう}
近く ^{ちかく} に住 ^す む外国人 ^{がいこくじん} が困 ^{こま} っているとき、相談 ^{そうだん} にのる	65
県 ^{けん} や市 ^し 町村 ^{ちやうそん} の情報 ^{じやうほう} を知らせる	46
自分 ^{じぶん} と同じ国 ^{おなくに} の人 ^{ひと} と助 ^{たす} け合う	45
近く ^{ちか} で開 ^{ひら} かれるイベント ^{いべんと} に行く ^い ように声 ^{こえ} をかける	39
近く ^{ちかく} に住 ^す んでいる外国人 ^{がいこくじん} の要望 ^{ようぼう} を市 ^{けん} 町村 ^{ちやうそん} に伝 ^{つた} える	36
日本人 ^{にほんじん} の友 ^{とも} 達 ^{だち} を紹介 ^{しょうかい} する	31
外国人 ^{がいこくじん} を助 ^{たす} ける団体 ^{だんたい} に入る	20
外国人 ^{がいこくじん} を助 ^{たす} ける団体 ^{だんたい} を作 ^{つく} る	8
したいことはない	0
その他	4

困^{こま}っている外国人^{がいこくじん}の相談^{そうだん}にのる、と回答^{かいとう}した人^{ひと}が65人と最^{もっと}も多い。橋渡^{はしわた}し役^{やく}を
したいと思^{おも}わない人^{ひと}はいなかった。

Q7 近くにいる日本人にどんなことを期待するか（全員が回答、あてはまるもの全部選ぶ）。

外国の文化や習慣について理解を深めてもらうことという回答が一番多い。



回答者数：81

選択肢	回答数
外国の文化や習慣について理解を深めてもらうこと	64
地域や職場・学校などで交流すること	52
外国人に対して思っていることを伝えること	41
日本の文化や料理などを外国人に教えること	39
日本人が外国人を助けること	23
特に期待することはない	1
その他	7

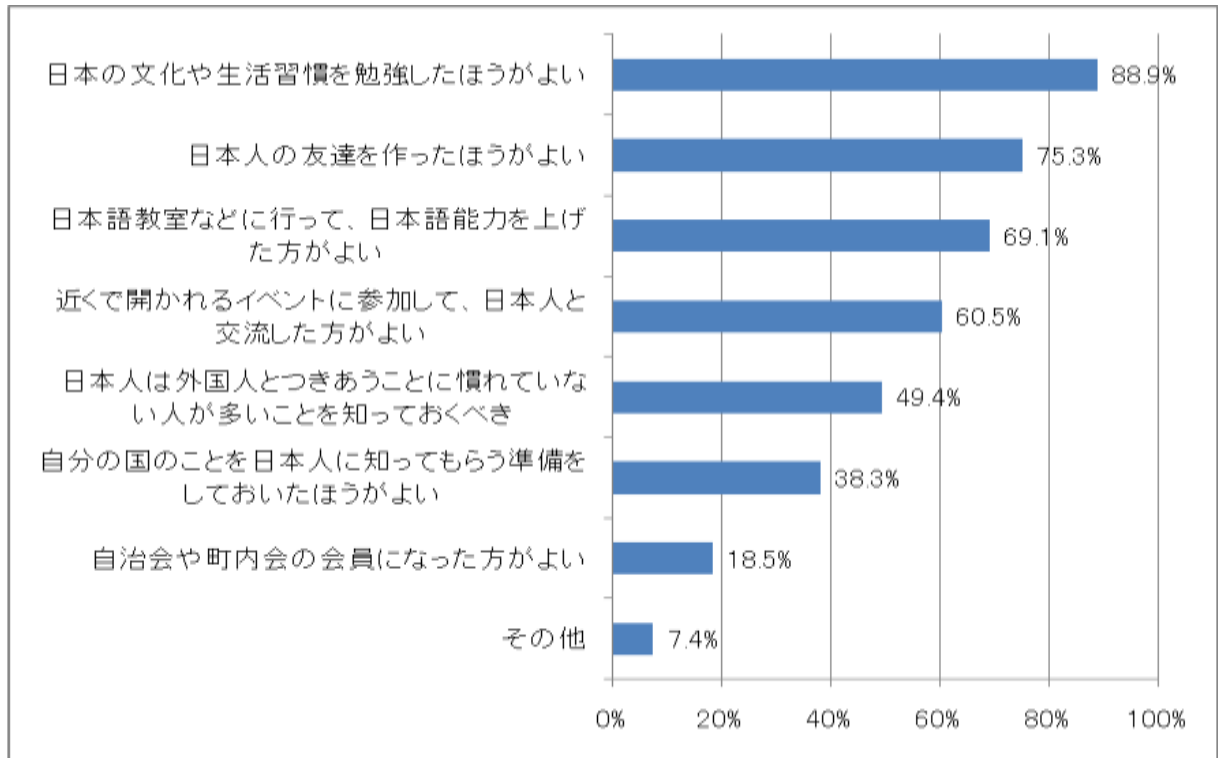
「外国の文化や習慣について理解を深めてもらうこと」が最も多く、次いで「地域や職場・学校などで交流すること」であった。

<「その他」の回答>

○国籍に関係なく友達になりたい。

Q8 これから日本に住もうと考^{かんが}えている外国人^{がいこくじん}にどのように助言^{じょげん}するか（全員^{ぜんいん}が回答^{かいとう}、あてはまるもの全部^{ぜんぶ}選^{えら}ぶ）。

日本の文化・生活習慣^{せいかつしゅうかん}を勉強^{べんきょう}したほうがよいという回答^{かいとう}が一番^{いちばん}多い。



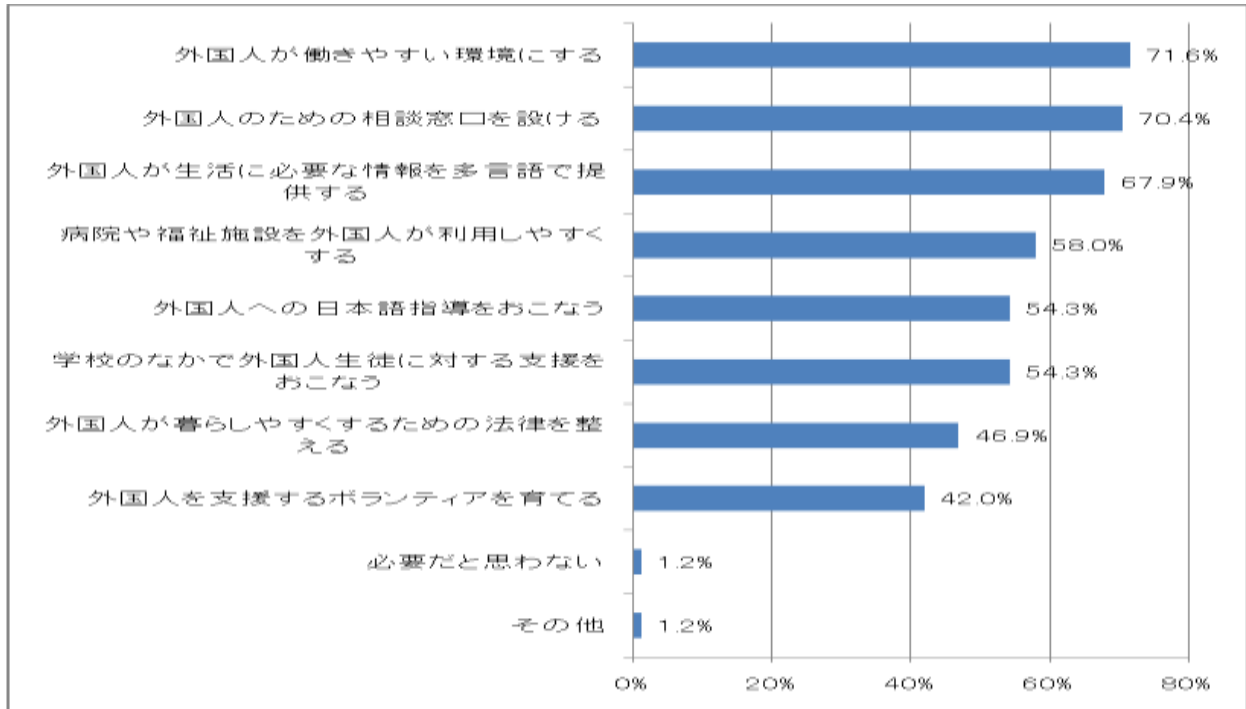
回答者数: 81

選択肢	回答数
日本の文化や生活習慣を勉強したほうがよい	72
日本人の友達を作ったほうがよい	61
日本語教室などに行って、日本語能力を上げたほうがよい	56
近くで開かれるイベントに参加して、日本人と交流したほうがよい	49
日本人は外国人とつきあうことに慣れていない人が多いことを知っておくべき	40
自分の国のことを日本人に知ってもらう準備をしておいたほうがよい	31
自治会や町内会の会員になったほうがよい	15
その他	6

日本の文化・生活習慣^{せいかつしゅうかん}を勉強^{べんきょう}したほうがよい、日本人^{にほんじん}の友達^{ともだち}を作ったほうがよいという回答^{かいとう}が多い。日本語^{にほんご}教室^{きょうしつ}などに行って、日本語^{にほんご}能力^{のうりょく}を上げたほうがよいといった回答^{かいとう}がそのあとに続く。

Q9 「多文化共生」の社会づくりのために、行政がどのように対応すべきか（全員が回答、あてはまるもの全部選ぶ）。

外国人が働きやすい環境にするという回答が最も多い。



回答者数：81

選択肢	回答数
外国人が働きやすい環境にする	58
外国人のための相談窓口を設ける	57
外国人が生活に必要な情報を多言語で提供する	55
病院や福祉施設を外国人が利用しやすくする	47
外国人への日本語指導を行う	44
学校のなかで外国人生徒に対する支援を行う	44
外国人が暮らしやすくするための法律を整える	38
外国人を支援するボランティアを育てる	34
必要だと思わない	1
その他	1

「外国人が働きやすい環境にする」が最も多く、次いで「外国人のための相談窓口を設ける」、「外国人が生活に必要な情報を多言語で提供する」であった。

Q10 「多文化共生」の推進についての意見、要望（自由記述）。

主な意見

日本(埼玉)に住んでいる(頑張っている)外国人を紹介することで日本のもっと多くの方が外国人を理解するきっかけを作った方が良いと思います。外国人は日本人に色々な迷惑を掛ける事も多いですが貢献もあることをアピールしたいと思います。

日本人と外国人との友達づくりの良い環境を提供します

埼玉県で行うイベントに外国人が参加できるようにして日本人とふれあったり、一緒に仕事をすれば、お互いを受け入れる事がもっと早くなるのではないかなと思います。

駅と店など人ごみのところに、「多文化共生」のポスターを多く貼って、日本人と日本に住んでいる外国人に両方呼びかけたほうが良いと思います。知らない人が多いから。

日本人に対して、国際的な社会における多文化共生の有益性を伝える必要があると思います。

日本の方に対して:国際化は日本化ではないことを理解していただく。外国の方に対して:日本の仕事の文化を理解していただく。お互いに尊重しあうのは仕事がスムーズにできるために一番重要だと思います。

外国人より日本人の認識が変わるのがもっとも大事だと思います。なんといっても外国人は日本人より弱者になるので相手を認めるのが重要だと思います。

まず、外国人にとって日本(埼玉県)がもっと住みやすいところになりますように、埼玉県は外国人の就職活動や日常生活をしっかりとサポートすべきだと思います。しかし、多文化共生の社会作りは、行政の対策だけではなかなか進まないように思われます。社会全体、そして日本人一人一人が外国人に対する考え方や接し方を改める必要があるのではないかと。子供をはじめ、多くの日本人は未だに外国人を「宇宙人」のような存在として見ているような感じが致します。外国人に対する偏見を取り壊すためには、まず学校教育の見直しがとても大事でしょう。

お互いに理解し合う。そのための環境作り。

日本人も外国人の文化も理解したほうがよいと考えます。日本人は、アジア系の外国人に対して、心ももっと開いたほうがよいと思います。

これは本当に大事なことだと思います。特に日本は、他の国々と比べて国際化があまり盛んではないように思います。外国人と話すのが恥ずかしいと思う人や、相手が外国人だと分かればそこで会話を打ち切る人も少なくないような気がします。今後、社会のメンバー全員が安心して暮らすためには、無くてはならないことだと思います。

国際フェア2009がもっとあればいいです。国際料理と文化を広められるいい機会だと思います。それをもっと宣伝をした方がいいです。パンフレットをポルトガル語にして配るなど。

今の時代はグローバル時代です。学校などで子供の頃から世界のこともっと教えるべきだと思います。ただ外国人ではなく、世界のいろんな国の中の一人一人、もちろん日本人もその一人、外国人もその一人だということを子供達が自然に思うような機会をいっぱい作ってほしいですね。そうしたら、時間はかかるかもしれませんが、「多文化共生」に近づかないでしょうか？

単一の文化ではなく、多文化が共生できるために、お互いの文化を理解する必要があり、そのために、交流の機会を設けることが重要だと思います。

もしできれば、地域や職場、学校などで外国人と日本人の交流会みたいなイベントをたくさん作ってほしいと思います。その中にお互いの文化や習慣など理解しやすいと思います。